

## 第二十五章 聯合國ノ各種會議ト巴里講和會議

### 軍事外交及經濟政策統一調査會議

開戦以來聯合國ノ政治又ハ軍事當局ガ隨時會合協議シタコトハ少ナク無イガ、是等ハ皆其時々ノ事態ニ對應スル爲メノ會合デ、聯合國ガ一團ト成ツテ會議ヲ開イタノハ、大正五年三月二十七八ノ兩日巴里ニ催サレタ軍事、外交及經濟政策統一調査會議ヲ噶矢トスル、此會議ニハ當時ノ聯合國タル佛、白、英、伊、日、葡、露、塞八個國ノ代表者ガ出席シタガ。

### 巴里經濟會議

次テ同年六月十四日カラ十七日迄經濟會議ヲ開キ、戰時ノ措置トシテ對敵通商ノ禁止、敵國人ノ事業強制管理、對敵物資供給杜絕等ニ關スル諸件ヲ決議セル外、聯合國商工業等ノ回復期ニ於ケル應急手段及聯合國間ノ共助協力ニ關スル措置ヲモ協定シタガ。張リ前記八個國ノ代表者ガ列席シ我國カラハ阪谷男爵ガ出張參列シタガ、日本ハ獨逸カラ遠ク離レテ居テ事情ヲ異ニスルカラ、戰禍ヲ直接ニ蒙リツツアル諸國ノ立場ヲ基準トシテ居ル對敵諸決議ヲ、其儘受ケ入レルコトガ出來ナカツタノハ已ヲ得ヌコトデ、相當澤山ノ留保ヲシタ。

### 國際常設經濟委員會

聯合諸國ハ對敵措置ニ關スル經濟會議決議ノ實行方法ヲ詳細ニ攻究調査スル爲メ、三月ノ巴里會議ノ決議ニ基キ經濟會議終了直後、巴里ニ國際常設經濟委員會ヲ設ケ、定期ニ會合シテ討究ヲ重ネ同時ニ情報ヲ交換シタガ、此委員會ハ休戰ニ至ル迄引き續キ開會ナレタ。

### 物資割當國際委員會

此他ニ物資割當國際委員會ナルモノガ在ル、是レハ瑞西、希臘及西班牙ヘ輸入サレル物資ノ監督ヲスル機關デ、殊ニ瑞西行ノ物資ニ對シテハ輸入數量ノ割當ヲシテ居ル。委員ハ佛、英、米、伊ノ四國丈ヶカラ出シテ居テ、利害關係ノ少ナイ我國ハ無論之レニ參加シテ居ラヌ、又參加シヤウトモ思ハナカツタガ、斯クノ如キ利害ノ厚薄カラ互ノ連繫ニモ影響シ、講和ノ時ノ干與權發言權ニ迄關係シハセヌカト心配シタ。

大正六年十一月聯合國會議

恰モ露國共產黨政府對策ノ爲メ大正六年十一月下旬巴里ニ聯合國會議ガ開カレルコトト成ツタ。主題ガ露國デアリ我國ハ其隣邦ナノダカラ、此會議ノ招請ニ漏レベキ筈ハ無イ、珍田松井兩大使ガ出席サレタガ「ボーランド」問題ガ相當論議サレタトノ事ダ。會議ノ模様ヲ聞イタ筆者ハ是迄東京ニ抱イテ居タ考ヘガ間違ツテ

居ル様ナ氣ガシテ來タ、其考ヘトハ日本ハ無關係ナ歐洲事項ニ容喙セヌカラ、其代リ歐米諸國モ極東ノ事柄ニ口ヲ出サヌ様ニシテ貴ヒタイト云フノデ、講和準備委員會モ此前提カラ講和會議デ參列國ハ其直接ノ利害ヲ有セヌ問題ニ亘ニ容喙セヌコトニシタイト決議シ、又前記聯合國會議ニ關スル訓令中ニモ我國ガ直接ニ利害關係ヲ有セヌ問題ニハ特ニ必要ノナイ限り討議ニ干與スルヲ避ケロトノ一項ガアルガ、ドウモ大國ガ其發言權ヲ自制スル様ナ空氣デハ無イ、如何ナル問題ニモ干與スルノヲ其當然ノ權利デアリ又義務デアルト考ヘテ居ル模様ダカラ、日本カラ準備委員會ノ決議ノ如キコトヲ云ヒ出シテモ通ル氣遣ヒガ無イノミナラズ、却テ蠱蛇ニ日本ノ發言權丈ヶヲ狹メル様ナコトニ成ル虞ガ萬々アルト氣ガ付イタラ、東京デ餘リ研究シテ置カナカツタ「ボーランド」ヤ「チエツク」等ノ諸問題ノ調査ニ早速取り掛ツタ。

## 巴里講和會議ニ於ケル發言權問題

屢々書イタ様ニ日本ハ發言權問題ヲ英、佛等ト協定シテ居ラヌシ、世界戰爭諸問題トノ聯繫モ多クナイカラ油斷スルト先方ニ惡意ガ無クトモツイ忘レラレル虞ガアル、日本ノ參戰ガ戰爭ノ大局カラ見レバ頗ル大キナ影響ヲ齎ラシタノハ云フ迄モ無イコトデ、僅カ「エムデン」一隻ニサヘ隨分手古摺タノダカラ、帝國海軍ノ援助ガ無カツタナラ、青島カラ脫出シタ獨艦ガ如何ナ活動ヲシタカモ知レズ、其爲メ濠洲軍ノ輸送ヤ物資ノ供給ニ何程ノ故障ヲ生ジタカモ分ラヌ、極端ニ云ヘバ我國ガ中立ノ方針ヲ執ツタラ、其事丈ヶデ戰局ガ如何ナ動キヲシタカト云フ様ナコトヲ考ヘルト、我國ノ行動ハ確カニ英、佛等カラ感謝サレテ然ルベキデ、其上

少シモ戰禍ヲ受ケヌ陸海軍ヲ持ツテ居ルノダカラ、講和ノ際諸列強ニ伍シテ堂々タル發言權ヲ有スルノハ當然ノコトデアリ、又之レヲ主張スペキ權利ガアルト思フ。元來發言權ノ有無ハ其國家ノ實力ノ問題デ「ルーマニヤ」ハ參戰ノ十日前大正五年八月十七日、英、佛、露、伊四國ト結ンダ同盟條約第六條ニ於テ、講和會議デ四國ト全然同様ノ發言權ヲ有スベシトノ保障ヲ取付ケル注意迄シタノニ、講和會議ガ開カレテ見ルト、此約束ハ蹂躪サレテシマツタ。「ルーマニヤ」ハ露國戰線崩潰ノ結果無援孤立ニ陷リ、大正七年五月中歐諸國ト講和スルノ餘儀ナイ羽目ニ成ツタカラ、大正五年八月ノ條約ハ消ヘテシマツタノダト云ヘバ夫レ迄デ、筆者ハ講和會議中大國有力者カラ屢々之ヲ耳ニシタガ、同國參戰ノ事情ヲ温ヌレバ此様ナコトヲ言ヘル義理デハナイ。要ハ國家實力ノ背景如何ニ依ルノデ、倫敦宣言ニ加入シテ居ル日本ト之ニ無關係ノ米國トガ、一ハ最高會議ノ仲間入リスル爲メニ腐心怠ラザリシニ拘ラズ時ニ落伍ノ憂目ニ遭ヒ、他ハ四頭會議デ牛耳ヲ執ツタ事實ハ、正ニ此消息ヲ語ルモノデアル。

大正七年十月五日獨逸ハ「ウキルソン」大統領ノ十四個條其他ノ聲明ヲ基礎トシテ講和綱結希望ノ申入ヲ米國政府ニ爲ス様其利益代表國タル瑞西ニ依頼シタ。「ウ」大統領ハ獨逸ヲシテ戰鬪ヲ再開スルヲ得ザラシメ且ツ戰敗者トシテ講和條件ニ服從セシムル基礎ヲ確立スル爲メ、獨逸ト交渉ヲ重ネ、満足ノ回答ヲ得タカラ十月二十三日聯合國ニ對シテ前記聲明ヲ基礎トシテ平和綱結ノ意思アリヤ、之レアルニ於テハ休戰條件ヲ軍事當局ニ協議セシムル意アリヤトノ照會ヲ發シタ、此ニ於テ聯合國ノ首相、外相等ハ相次デ巴里ニ乘込ミ、米國カラ先發ノ「ハウス」大佐モ二十四日ニ着イタ、彼等ハ隨時會合シテ内相談ヲ始メタガ我方ニハ何ノ通

知モ無イ、又二十五日ニハ「サンリス」デ「フォツシユ」總司令官ガ英佛米白ノ司令官ヲ集メテ合議シタ、以上ハ主トシテ休戰ニ關スル軍事上ノ問題タカラ日本ニ關係モ薄イト思ヒ其儘ニ打過ギタ所、三十日ノ朝彼等ハ休戰條件ヲ纏メ午後ニハ佛英伊ノ首相、外相、米ノ「ハウス」大佐、希塞兩國ノ首相モ參加シテ「ヴエルサイユ」ニ正式ノ最高軍事會議ヲ開イタカラ、此上默シテ居ルト講和會議ノ發言權ニ迄如何ナ影響ヲ及ボスカモ知レス故、我方ニ無斷デ該會議ノ開カレタコトニ抗議シ、斯クシテ我代表ハ十一月一日カラ會議ニ參列シタ。此日ニハ白耳義モ加ハリ、二日ニハ葡萄牙、四日ニハ「チエツコ、スロヴアキア」ガ參加シタ、此會議ノ主題ハ云フ迄モ無ク休戰ニ關スル軍事條件タガ、右以外ニ「クレマンソー」氏ノ主張デ賠償條項ヲモ休戰規約中ニ加ヘルコト成ツタ。三日ニ澳洪國トノ休戰ガ出來タカラ翌四日總ベテノ議ヲ纏メ米國大統領ヘ返事ヲ送リ、大統領ハ五日之レヲ獨逸ニ取次タ、十一月十一日ニ調印サレタ休戰規約ハ四日ノ決定其ノモノデアル。

### 最 高 會 議

十二月二日倫敦ニ「ロイド、ジョオージ」「クレマンソー」「オルランドー」三首相及「ハウス」大佐ガ集マツテ講和會議ノ下打合セヲシタトノコトダガ、日本ハ又忘レラレタ。「ウキルソン」大統領ハ十二月十四日巴里ニ着シ、二十五日戰線視察ノ途ニ就キ次テ英伊ヲ訪問シタ、我全權團ノ消息ヲ述ブレバ珍田大使ト落合公使ハ大正八年一月十一日着巴、翌十二日加藤恒忠、佐分利貞男兩氏先着、十八日牧野男一行米國經由着、三

月三日印度洋廻ニテ西園寺侯着、一月十二日午後佛國外務省ニ米英佛伊四國丈ケ集マツテ會議シツツアルトノ情報ニ接シタガ、是ヨリ先キ一月十日佛國外務大臣「ビション」氏ハ我代表ニ十三日ニ最高會議ヲ開クカラ列席スル様案内ヲヨコシテ居タノデ珍田、松井兩大使出席シ、爾來我國ハ常ニ最高會議ニ參加シタ、十二日ノ會議デハ佛國ノ提出ニ係ル講和會議ノ構成、手續等ニ關スル議事規則案中全權代表者數ニ關スル部分丈ヲ可決シタ、之レニ依ルト日本ハ他ノ四大國ト同ジク五名ノ全權ヲ出シ得ルコト成ツテ居ル。此議事規則案ハ英米伊ニハ一月五日既ニ配布濟タツタコトヲ後ニ聞イタガ、之レト全然異ナツタ佛國原案ハ休戰後間無ク大正七年十一月二十九日駐米佛國大使カラ國務省ニ渡サレ之ニ對スル大統領ノ意見ヲ求メタ「ウキルソン」氏ハ出發モ差迫ツテ居タノデ發航前何等ノ氣附モ述べナカツタ様タ、又其後如何ナル提議シタカ筆者ハ知ラヌ、佛國ハ英伊ニモ多分此原案ヲ送致シタコト思フガ、日本ハ受取ツテ居ラヌ。筆者ガ初メテ其全文ヲ見タノハ一九二三年ニ出版サレタ「ベーカー」氏ノ著書ニ於テデアルガ、之レニ依ルト佛國最初ノ考案デハ、先ヅ米英佛伊ノ四大國丈ケデ講和假條約中ニ掲グベキ條件ヲ決定シ、此假條約ヲ敵國ニ承諾サセタ後他ノ交戰國ヤ敵國ヲモ加ヘタ講和會議ヲ開キ本條約ヲ作ラントスルモノデ、日本ノ地歩ハ全然無視サレテ居タ之レガ我國ノ有利ニ轉化シタ經緯ハ承知セヌガ、無論實力ノ背景ガ原動力デアツタコトヲ疑ハヌ。斯クシテ我國ハ最高會議ニ參列ルコトト成リ該會議ハ差當リ休戰規約ノ追加條項ト講和會議議事規則ノ殘部トヲ協議シ此議事規則ハ一月十八日開カレタ第一回總會議ニ配布サレタ。筆者ガ提出サレタ云ハズニ配布サレタト書タノハ理由ノアルコトデ、最高會議ノ作ツタ議事規則ヲ押付ケテ其儘鵜呑ニサセタカラデアル。講和會議

ハ或意味ニ於テハ最高會議ヲ構成スル五大國ノ專制政治デ、幹部會ヲ構成スル講和會議ノ議長及副議長モ、事務局員、起草委員全權委任狀審査委員モ皆五大國員ノミデ、特ニ佛國ノ出シタ議事規則案ニハ講和會議ノ決定ハ全員一致ニ依ルベク、少數國ハ多數意見ニ服從スルヲ要セヌトノ規定ガ在ツタガ「ウキルソン」大統領ノ主張テ此項ハ削ラレタ、左ニ議事規則ニ基イテ講和會議ノ構成ト發言權ニ關スル大系ヲ紹介スル。米英佛伊日五國ハ一般利害關係ヲ有スル交戰國トシテ總テノ會議及委員會ニ出席ス、其他ノ交戰國ハ特殊利害關係國トシテ其利害關係アル問題ノ討議ナルル會議ニ出席ス、斷交國モ亦利害ヲ有スル問題ノ討議ニ參加ス。各國ノ全權數ハ左ノ通リデアル。

## 米、英、佛、伊、日

各五名

## 白、伯、塞

各三名

支、希、「ヘツヂヤス」波蘭、葡、

各二名

羅馬尼、暹「チエツコスロバアキア」

各二名

暹羅ハ一名ナリシヲ同國ヨリ抗議アリシ爲メ一月十六日ノ會議ニテ二名トスルコトニ決ス。

## 右以外ノ諸國

各一名

英國自治領濱洲、加奈陀、南阿及印度 各二名

## 「ニユー、ジーランド」

一名

席次ハ佛語ニ依ル各國名ノ「アルファベット」順ニ從フト規定サレテ居ルガ、五大國ハ其以外ノ國ヨリ上席

ヲ占メ又條約ニモ主タル同盟及聯合國トシテ他ノ諸國ト區別サレテ居ル、此大國間ノ席次デアルガ、米國ハ以前ハ合衆國ノ頭字Eタツタノヲ、多分第二回平和會議ノ時カラダト思フガ、亞米利加ノAノ字ニ直ス様ニ主張シ、英國ハ大不列顛ノGデアツタガ、今度不列顛帝國トシタ爲ニBニ成ツタ、又英國自治領ヤ印度ガ政治上ノ會議ニ各自ノ代表者ヲ出シタノモ巴里講和會議ガ初メテダト思フ。

講和會議ハ最初ハ講和豫備會議ト稱シ、先づ講和假條約ヲ作ル積リデ現ニ二月中最高會議デ本件ハ兩三日討究サレ、又議事規則ノ冒頭ニモ先づ假條約ヲ作リ、次デ本條約ヲ議スト書イテ在ルガ、二月十五日ニハ「ウキルソン」大統領歸米シ、其二十一日ニハ「クレマンソー」氏負傷シ、會議ノ決定抄取ラザリシ間ニ、多數ノ委員會デハ議論ガ漸次詳細ニ亘ツテ行ツタ爲メ、其條項ヲ纏メルト此上更ニ本條約ヲ作ル餘地ガ無クナツタ、又「ウキルソン」大統領ハニツモ條約ヲ米國上院ニ掛ケルノヲ好マズ、假條約ヲ作レバ國際聯盟規約ハ自然本條約ニ丈ヶシカ規定サレヌコトト成ルノデ、該規約ヲ加ヘタ平和條約ノミヲ作リ、規約ノ上院通過ヲ容易ニシヤウト考ヘテ居タ、此等ノ事情デ、講和豫備會議ト稱セラレ又印刷サレテ居タノガ、何時ノ間ニカ講和會議ト改稱サレルニ至ツタ。

發言權問題ノ參考トシテ主モナ委員會及分科會ト參列國名ヲ左ニ掲ゲル、其國名中五國ト在ルハ米英佛伊日四國トハ日本ヲ除ク大國ヲ指スモノデ、日本ノ加ツテ居ラヌ分ハ我方デ其必要無シトシテ自ラ回避シタノデアルカラ、誤解ナキ様ニ願フ。

## 國際聯盟

## 五國、白、伯、塞、支、希、波、葡、羅、塞、「チエツク」

戰爭責任及制裁	五國、白、希、波、羅、塞、
犯罪行爲	英、佛、伊、白、塞、
戰爭責任	米、伊、日、波、羅、
戰時法規違反ノ責任	希、波、葡、羅、塞、「チエック」
賠 債	敵國ノ財政能力
損害見積	五國、波、葡、羅、塞、「チエック」
監督手段及保障	五國、白、希、波、
勞 勵	五國、白、玖馬、波、「チエック」
港 水路及鐵道	五國、白、支、希、波、葡、羅、塞、「チエック」
通 過	五國、支、希、波、葡、「ウルグアイ」
河川ノ制度等	五國白、羅、塞、「チエック」
「キール」運河	五國、
財 政	五國、白、希、波、羅、塞、「チエック」
緊急事件	五國、白、希、波、羅、塞、「チエック」
貨幣制度	佛、伊、日、白、波、羅、

聯合國間ノ案件	五國、白、希、波、羅、塞、「チエック」
換洪利札支拂	佛、伊、波、羅、塞、「チエック」
經 濟	五國、白、伯、支、希、波、葡、羅、塞、「チエック」
恒久的通商關係	五國、支、葡、羅、
租稅、關稅	五國、白、葡、羅、塞、
航 行	五國、白、伯、波、羅、葡、塞、
不正競爭	五國、白、支、葡、
第二分科會	
工業所有權	五國、白、伯、羅、葡、
戰前契約	五國、白、支、波、葡、
敵財產ノ清算	五國、白、伯、葡、羅、塞、
敵タリシ外國人	五國、白、波、葡、
條約ノ廢棄、復活	五國、白、伯、波、葡、
航 空	五國、白、伯、玖馬、希、葡、羅、塞、
軍 事	五國、
技 術	

法務、商業、財政	地 理	五國、白、
俘虜	陸軍、海軍	五國、
俘虜返還	海底電線	五國、
	「モロツコ」	五國、
	「ライン」左岸	四國、白、葡、
	殖民地	四國、白
	獨逸殖民地	英、佛、伊、
	委任統治	五國
	領土問題	五國、白、
「ライン」地方聯合委員會	中央委員會	米、英、佛、白、
「チエツコ、スロヴァキア」四國		
波 蘭		
波蘭派遺員	四國、	
「テツシエン」四國、		
波蘭諸問題	五國	
東部國境	五國、	
西部國境	米、英、佛、	
「テツシエシ」「オラヴァ」問題	五國、	
波蘭「ウクライナ」間休戰	四國、	
獨逸東部國境	四國、	
羅馬尼及「ユーゴースラヴキヤ」	四國、	
希臘及「アルバニア」	四國、	
白耳義及丁抹	五國、	
「バルチック」問題	五國、	
一八三九年條約ノ改正	五國、白、蘭、	
軍事分科會	五國、白、蘭、	
對換條約關係		
新立國		

政治條款  
伊國政治條款  
五國、  
四國、

天津居留地  
五國、

### 小國ノ委員會參加權

講和會議ノ中半迄會議ヲ指導シタノハ最高會議デ、五大國カラ二名ノ全權ガ出席シタカラ、俗ニ十頭會議ト呼バレテ居タ。「ウキルソン」大統領ヤ英佛伊ノ首相外相ガ常ニ出席シタ爲メ其權威ハ隆々タルモノデ、重要案件ハ大概最高會議デ豫メ決定ナレタ實情デアル。一月二十五日ニ第二回總會議ヲ開イテ五委員會ノ構成ヲ附議スルコトモ、又此等委員會ニ參加すべき小國ノ數ヲ限ツタコトモ、皆最高會議ノ專斷デアルガ、此委員會中戰爭責任、勞働並ニ港、水路及鐵道ニ關スル三委員會ニ就テハ五大國ヨリ各二名、小國ハ互ニ協議シテ五國ヲ選定シ其代表者各一名ヲ出スペキモノトシ、賠償委員會ニ至ツテハ參加シ得ル國ヲ白、希、波、羅、塞ト限定シタ。然ルニ國際聯盟委員會ノ構成ニ就テハ唯漠然ト「講和會議ハ聯合國ヲ代表スル委員會ヲ任命ス」ト書イテアル丈ケダ、最初「ウキルソン」大統領ガ一月二十一日ノ最高會議デ述べタ考案ハ五大國各二名カラ成ル委員會ヲ作ル積リデアツタガ、翌日「ロイド、ジョオージ」首相ノ出シタ案ガ採用サレテ總會ニ提出サレタ、何故英國側デ斯様ナ漠然タル式ヲ好ンダカ其理由ヲ聽キ漏ラシタガ、或ハ餘リ具體的ニ委員數ヲ制限シテ提出スルト、問題ガ問題文ケニ總會デ異議ガ出テ、萬一原案ヲ變更セネバナラヌ様ナ羽目ニ陥ル

ト、大國ノ權威ヲ損ヒ、之レガ例ト成ツテ種々ノ事件ニ小國カラ容喙サレル俑ヲ作ルヲ慮カツタ爲メカモ知レヌ、此英國案ヲ可決シタ時最高會議ハ引續イテ大國カラ各二名、小國カラハ併セテ五名ノ委員ヲ出スコトニ決議シタ、之レヲ右ノ考察ニ照シ合セルト、紙ニ書テ出スト拘束サレルカラ議長ガ其腹案トシテ述ベレバ變更ノ餘地モアリ無難ダト云フ底意ダツタノカトモ思ハレル、然シ聯盟委員會ノ構成案ハ最高會議ニ他ノ四委員會案ヨリモ早ク附議サレテ居ルカラ、外ノ様ニ研究ガ出來テ居ズ、他ニ重要案件ガ澤山アツタ爲メ前ニ戾ツテ更ニ形式ヲ統一スル暇ガ無カツタト見ルノガ或ハ真相ニ觸レテ居ルカモ知レヌ、ソハ兎モ角トシテ第二回總會議デハ劈頭ニ國際聯盟ノ決議案ガ上程セラレ「ウキルソン」大統領ヲ筆頭トシテ一種ノ演說會ガ開カレタガ、最後ニ白耳義ノ「イーマンス」外相カラ委員會ノ構成ニ付質疑が出タノデ「クレマンソー」議長ハ豫期シテ居タト許リニ「大國ハ動議ニ從ヒ委員會ニ各二名ノ委員ヲ指名シタ、其以外ノ諸國ハ併セテ五名ノ委員ヲ選ビテ委員會ニ此等諸國ヲ代表セシムルコトニ決セラレタ、故ニ其日デ不都合ナクバ例ヘバ一月二十七日ノ午後二時カ三時カニ諸君等集合シ、互ニ協議シテ五名ノ委員ヲ指名スル様勸誘スル、此他ノ委員會ニ付テモ同様ノ投票ヲ要スルカラ、選舉ハ其日ニ數回行ハレル譯ダ」ト述べタ。此レカラ論戰ガ開カレ先ヅ「イーマンス」外相立チテ、特殊利害關係國ト云フ巧妙ナ名稱ノ案出サレタノヲ揶揄シタ後、白耳義ノ國際的地位ハ聯盟ノ成立ニ緊切ノ利害ヲ有スルコト、白耳義ノ商工業ハ大國ノ伍伴ニアルコトヲ指摘シテ、聯盟及勞働兩委員會ニ白耳義代表二名ノ參加ヲ要求シ、又白耳義ガ戰禍ヲ受ケタ最初ノ國デアリ、殆ンド全土ヲ舉ゲテ敵手ニ蹂躪サレタ歴史ヲ強調シ、白耳義ニハ歐洲大陸ノ第三ニ位スル港ガアリ、其鐵道網ノ發達ハ歐

洲第一デアルコトヲ述べテ、戰責委員會ト港、水路及鐵道委員會ニ各一名ノ代表者ヲ出ス權利アルコトヲ主張シタ。「イーマンス」外相ハ以上ヲ諸大國ト講和會議々長ノ公正ニ訴ヘルト述べ其ノ演述ヲ結ンダガ、次ニ發言シタ伯刺西爾ノ代表ハ頻繁ニ「決セラレタ」ト云フ言葉ヲ聞クガ、驚キ入ツタコトデ、一體誰ガ決定シタノカ、吾々ハ會議シツツアルノデ決定ノ機關ハ會議其モノデナケレバナラスト冒頭ニ獅子吼シタガ、結局聯盟委員會等ニ委員ヲ出シ度イト云フノガ落デアツタ。加奈陀ノ「ボーデン」首相ハ小國ニ同情ヲ表シ國際聯盟ノ設立ハ大國ニ對シテヨリモ小國ニ更ニ必要デアルガ、委員會ノ人數ヲ餘リ多クスルハ討究ノ進捗ニ資スル所以デ無イト述べタ後「決セラレタ」ト云フ様式ハ甚ダ好マシクナイ、何人モ直覺的ニ誰ガ決シタノカト反問スルコトニ成ルカラ、將來ハ會議ニ一應附議シテ決スル様ニシタイ、自分ノ知ル所デハ現今ニツノ會議ガ同時ニ仕事シテ居ル、即チ五大國會議ト此總會議トデアルガ、今迄決議サレタモノノ中ニ五大國會議ナド云フモノハ未ダ見エテ居ラヌ、吾々ハ五大國ノ代表者ガ設ケタ規則ニ據ツテ仕事シテ居ルノダカラ、是レニ依準スルノガ最モ望マシイト思フ、就テハ今後ハ此規則ニ從ツテ手續ヲ定メルコトヲ希望スルト皮肉ツタ。支那ノ陸徵祥外交總長ハ國家平等權ヲ基準トシ海牙平和會議ノ例ニ倣ヒ參列諸國ヲシテ其欲スル各委員會ニ委員ヲ出席セシムル方、會議ノ成績ヲ舉ゲル所以ダト述べテ此方針ノ採用ヲ提議シ、波蘭委員「ドモウスキー」氏ハ其國ノ實體ヲ紹介シテ各委員會ニ代表者ヲ出シ得ル權利アルヲ主張シタ後、各國集マリテ選舉スルハ徒ラニ喧噪ニ時ヲ浪費スルニ過ギヌカラ、各國ハ諸委員會ニ出席セシメントスル員數ヲ定メ、其要求理由書ヲ提出シ、最高委員會ヲ設ケテ之レヲ審査ノ上各委員會ノ構成ヲ決定セシメルノガ最モ實際的ダト考

ヘルト述べタ。此他自國委員ヲ委員會ニ參加サセル爲メ發言シタ代表者ハ尙ホ五六名アツタガ討議終結シタノデ「クレマンソー」議長ハ大様左ノ如キ返答ヲシタ。

余ハ幹部會ノ爲メニ辯明スルガ、若シ幹部會ガ總チニ満足ヲ與ヘ得ルモノト少シデモ考ヘテ居タラ、今ヤ全ク其誤ツテ居タコトヲ悟ツタデアラウ。「サー、ロバート、ボーデン」ハ「決セラレタ」ト云フタコトヲ非難サレタガ、吾々ハ現在ノ講和會議ノ召集ヲ決シタ如ク委員會ニ付テモ亦決シタノデアル。巴里ニ講和會議ヲ開クコトヲ決定シタノハ吾々デ、利害關係國ノ代表者ヲ此會議ニ召集スルニ決シタノモ亦吾々デアル、大國ノ會議ガ此隣室ニ開カレテ居ルノモ事實デ、五大國ガ斯クノ如キ行動ニ出ルノハ當然ダト思フ。

吾々ハ多大ノ犠牲ヲ拂ツタノダカラ、若シ國際聯盟ノ大理想ニ基カナカツタナラバ、吾々ハ恐ラク吾々ノ間デ丈シカ相談セヌ様ナ自我的行動ニ出タダロウ。是レハ吾々ノ權利デアル。吾々ハ之レヲ欲シナカツタソシテ利害關係國ヲ廣ク召集シタ、之レハ吾々ノ意思ヲ是等諸國ニ押付ケル爲メデモ又其欲セザルモノヲ爲サシメントスル爲メデモナク、其協戮ヲ求メルニ外ナラヌノデアル。協戮シテ仕事スルノニ人數ガ多ケレバ夫レ丈其成績ガ反比例スルノハ自分ノ長イ議會生活ノ經驗ガ能ク之レヲ教ヘテ居ル。吾々ヲ監視シテ居ル輿論ハ、何々委員會ニ某々國ガ代表者ヲ出シタ云フ様ナコトニ興味ヲ持ツテハ居ラヌ、只吾々ガ如何ナ仕事ヲスルカニ留意シテ居ルノミダ。

今尙ホ休戰中デ數百萬ノ將卒ハ戰線ニ在ルノデアル、此時ニ當リ決スベキモノハ手續ノ問題デハ無クシテ基本ノ事項デアラネバナラヌ、吾々ハ手續問題ノ爲メニ時日ヲ空費スルコトハ出來ヌカラ、本日ノ日程ニ

上ツテ居ル議案ヲ採納シテ直ニ仕事ニ取掛ツテ貰ヒタイ。意見ヲ述べタイ人ハ「ドモウスキー」氏ノ提言シタ様ニ書イテ幹部會ニ差出シテ差支ナイ、然シ特別ノ委員會ニ其決定ヲ委ネルコトニハ同意出來ヌ五大國ニ其意思ヲ強要セントスルガ如キ権利ヲ委員會ニ認メルコトハ不可能ダ。

第二回總會議ヲ決定シタ各委員會ニ小國代表ヲ割當テル爲メノ會合ハ、佛國ノ「ジュール、カンボン」大使ヲ議長トシテ一月二十七日ニ開カレ、賠償委員會ニ「チエック」代表ヲ加ヘ、聯盟ト交通ノ兩委員會ニハ參加國ヲ四丈ケ増シテ貰ヒ度イト云フ趣旨デ其選定ヲシタ、二月三日ノ最高會議ハ本件ヲ上程シ賠償委員會ヘ「チエック」代表ヲ加フル件ハ即決時可シ、他ノ二件ハ當該委員會ヲシテ之レヲ決定サセルコトニ議纏マリ委員會ハ小國ノ希望ヲ容レタノデ本件ハ落着シタ。

以上デ小國ガ如何ナ取扱ヲ受ケタカト云フ一班ハ闡明シタト思フ、細カイ事ヲ書ケバ限リガ無イカラ此位デ擱筆スルガ、今一ツ財政及經濟兩委員會構成ノ經緯ヲ簡單ニ述べテ見ヤウ、一月二十三日ノ最高會議ハ財政問題ノ豫備的研究ヲ五大國各一名ノ委員カラ成ル會議ニ委ネルコトヲ決議シ、二十七日ニハ經濟問題ノ爲メニ同様ノ會議ヲ設ケルコトヲ決議シタ、此會議ハ財政起草委員會及經濟起草委員會ト呼バレ、孰レモ次デ設ケラルベキ正式ノ委員會ニ附議スルヲ必要ト認メル議題ノ擇擇ニ専ラ從事シタノデアルガ、兩方ノ研究モ終ツタカラ三月一日ノ最高會議ハ大國各二名小國併セテ五名カラ成ル二委員會ヲ設ケルニ決シ、三日ニ小國委員會ノ選舉會ヲ開ク様事務總長ニ命ジタ、此三月三日ノ會合デ五人ハ餘リ少ナイト云フ意味カラ、兩委員會ヘノ代表國ヲ各十指定シテ之ヲ最高會議ニ送ツタガ、最高會議ハ矢張リ最初ノ決議ヲ維持スルニ決シテ再選ガ、其結果ハ左ノ如キ奇觀ヲ呈シタ。

舉ヲ要求スルト共ニ、委員ガ揃ハナクトモ會議ヲ開ク様ニ通達シタ。財政委員會ハ三月五日ニ第一回ノ會合ヲシタガ、出席シタノハ五大國委員文ケネノデ莫米委員カラ小國委員ノ出席スル迄延期ヲ提議シ流會ニ終ツタ、經濟委員會ハ三月七日ト十日ニ集マツタガ是亦五大國委員ノミダツタノデ、分科會設置ノ問題ヲ討議シタニ過ギナカツタ、小國側ハ三月六日ニ會合シテ今度ハ定員タル五國ヲ選舉シテ後補充トシテ四國ヲ選ンダガ、其結果ハ左ノ如キ奇觀ヲ呈シタ。

財政委員會 正委員 祕露、伯、「ボリヴキヤ」、「バナマ」、葡

經濟委員會 正委員 羅、白、支、希

經濟委員會 副委員 白、塞、羅、希

最高會議ハ之レヲ極メテ不合理ト認メ「ビション」外相ニ立案ヲ依囑シ、三月十日左記ノ同外相案ヲ可決シタ。

聯合國最高會議ハ戰爭ニ現實ニ參加シ且ツ之レガ爲メ損害ヲ蒙レル諸國ヲ財政及經濟兩委員會ヨリ除外シ能ハザルヲ認メ、特殊利害關係國會合ノ提出ニ係ル委員表ヲ採納スルコトヲ得ズ、仍テ本件ニ關シ左ノ決議ヲ爲ス。

一、財政委員會ニハ白、希、波、羅、「チエック」及塞ヨリ各一名ノ委員ヲ出スコト。  
二、經濟委員會ニハ白、伯、支、波、葡、羅及塞ヨリ各一名ノ委員ヲ出スコト。

右以外ノ特殊利害關係國ハ其利害ニ關スル問題ノ討議セラル場合ニハ常ニ當該委員會ニ意見ヲ開陳スル  
ヲ得ベシ。

斯クシテ財政及經濟兩委員會ハ成立シ、後ニ至ツテ經濟委員會ニ希臘ト「チエツク」ガ加ヘラレタ。

## 第一十六章 巴里講和會議ノ推進力

### 四 頭 會 議

發言權問題ヲ常ニ氣ニシテ居タ筆者ハ講和會議ノ議事規則、一般利害關係國ハ總テノ會議及委員會ニ出席スト規定サレ、日本ハ一般利害關係國中ニ加ハツテ居ルカラ、是レデ最早杞憂ハ一掃サレ問題ハ解決セラレタト大ニ喜ンダ、果シテ會議ヲ指導スル最高會議ニ我全權ハ當時出席シ、完全ナ干與權ト發言權トヲ保持シ得タノミナラズ、會議ノ機密ハ細大漏ラサズ之レヲ把握スルコトガ出來タ。然ルニ不慮ノ事件カラ四頭會議ナルモノガ生マレテ、終ニ今迄ノ苦心ハ水泡ニ歸シ、我發言權ガ蹂躪サレルニ至ツタノハ返ス／＼モ殘念デアル。三月二十四日午後ノ最高會議デ議長「クレマンソー」氏ハ、米國大統領ト英佛伊ノ首相ハ明日カラ毎日二回會合スルコトニシタ爲メ時間ガ無イカラ、最高會議ノ次ノ開會日ヲ豫メ定メヌ様ニシタイト提議シタ、此日ノ最高會議ニハ初メニ波蘭軍隊ノ輸送、次ニ海底電線、最後ニ「テツシエン」問題ガ附議セラレタガ、是等ガ終ツテカラ前記「クレマンソー」氏ノ通告ガ在ツタノデ「チエツク」委員會ニハ日本ハ參加シテ居ナカツタカラ「ク」氏通告ノ時我代表ハ會議ニ列席シテ居ナカツタ様ニ記憶スル、若シ居タラ或ハ其席デ右ノ會合ニ參加ヲ要求シ得タノダガ、何レニセヨ最初吾々ハ此會合ヲ極メテ一時的ノモノト考ヘ、二三日後ニハ又最高會議ニ復歸スルコトト觀測シテ居タ所、前記ノ「ク」氏通告前既ニ四人ノ會合ガアリ、二十五日カラ